

まちづくり講座

「ストリート広告導入を」

西表 千尋氏 屋外広告の景観問題指摘

まちづくり会社、(株)タウンマネージメント石垣が主催する「まちづくり講座」第六回は五日夜、市商工会館ホールに、「ストリート広告事業」に取り組んでいる二十三歳の若き起業家、西本千尋氏(株)ジャパンエリアマネージメント社長)を招いて講演した。商店街のアーケードや街灯の旗、壁面などを広告媒体として活用することで、財源の創出とまちの魅力向上の双方を実現しようというストリート広告。西島氏は小さな商店街でもターゲットを明確にすれば広告事業は可能と強調した。

西島氏は、これまでの「企業のごった煮状態」と「ため統一感がなく景観を屋外広告について「複数」表現。個別にやっている」乱す要因にもなっている

と指摘した。このため、西島氏は商店街組織が一元的に広告を管理する方

ストリート広告事業について説明する西島千尋氏(5日夜、市商工会館ホール)



西島氏は大学時代に回った各地の街の様子に「没個性化にショックを受けた」経験から、大卒後コンサルタント会社を設立。まちづくりに取り組む組織の共通の課題となっている財源不足を解決しようと、ストリート広告事業を提案している。

まちづくり講演はタウンマネージメント石垣が二〇〇六年度中心市街地活性化支援事業(コンサルタンス形成事業)として実施したもので、今回で終了した。これまで六回の講演を通し、まちづくりについて学んできた。

法を提案し、東京・表参道の店主らで組織する「樺会」の取り組みを紹介した。西島氏は「地域のルールに基づき、景観に資する広告。それが収入になり、まちづくりに投入できる」と二石二鳥の利点を挙げた。地方都市などの小さな商店街でも「誰が通るのか明確化することで(広告媒体として)売りがよくなる」とアドバイスした。